

令和2年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議  
第2回地域包括支援に関する会議 会議録(全文)

1 開催日時

令和2年10月27日(火) 18:30~20:00

2 開催場所

北九州市役所 3F 大集会室

3 出席者等

(1) 構成員

安藤構成員、伊藤構成員、今村構成員、大丸構成員、佐藤構成員、  
重藤構成員、白木構成員、杉本構成員、高崎構成員、田上構成員、  
中村構成員、森野構成員、油布構成員

(2) 事務局

総合保健福祉センター担当部長、地域福祉部長、認知症支援・介護予防センター  
所長、長寿社会対策課長、地域福祉推進課長、地域支援担当課長、介護保険課長  
ほか

4 会議内容

(1) 議事

- ・(仮称)次期北九州市いきいき長寿プラン(素案)について
- ・地域ケア会議の実施状況について

(2) 報告

- ・次期北九州市地域福祉計画について
- ・「とびうめ@きたきゅう」について

5 会議経過及び発言内容

議事(1)(仮称)次期北九州市いきいき長寿プラン(素案)について・・・資料1

事務局：議事について資料1に沿って説明

代表：ただいまの説明は、次期長寿プランの全体像と、施策の柱、それから、補足説明してもらったが、資料の1-1の中段にある三つの視点というのは、これはあくまでも全体に共通して関わっているコンセプトになるような部分だと思っただけかと思う。

まず、この全体につきまして、意見はないか。

構成員：施策の柱のところ、健康づくりで生活習慣病予防に向けた取り組みの推進の中の「高血圧ゼロのまち」ということであるが、高血圧が北九州市は他の市に比べて多いのかどうかお尋ねしたいのと、総合的な認知症対策の推進の中に「本人が経験や現状を自らの言葉で語り、」とあるが、なかなかご自身で現状というのを認識されるのは、非常に私たちの現場では難しい。具体的には、どのようにイメージしたらいいのかなとい

うことをお聞きしたい。

**代表**：最初の質問については、事務局にお願いしたい。

**長寿社会対策課長**：申し訳ないが、今、手元に北九州市内に高血圧の患者さんが多いかどうかというデータを持ち合わせていない。

ただ、私どもが聞いているのは、「高血圧ゼロのまち」というこの言葉は、日本高血圧学会の方で出されている言葉ということで、それを引用してこちらの方に入れさせていただいているということである。最初の高血圧の患者に関しては、わかっただらご報告させていただきたい。

**代表**：2点目であるが、認知症をめぐってというところであるがいかがか。構成員の皆さんの中でも、ご意見等いただけるなら、ぜひお願いしたい。

**構成員**：先日オレンジ会議で認知症になった方のいろんな発表があった。皆さん、すごく心に届くということがあり、発表されている場も多い。

そういったものは北九州市でもどんどん行われていると思うので、ちょっと探りながらいかれるといいのではないかと。今は認知症にかかっても、発表する場や参加する場ということで、どんどん広がっているのだから、そこは、すごくよかったような気がする。

簡単ではあるが、そういったことも研修で行われているということも、伝えていければいいかなと思う。

**代表**：関連してないか。

**構成員**：認知症の方が、家族の方々がどういう介護をするかということによって、すごく症状が緩和されたりだとか、お互いに仲間づくりという目的も含めてだと思ふ。やはり認知症の診断をされたりだとか、不安がある方々にとっては、当事者の言葉というのはとても影響力があると思うので、ぜひ発信できる場というのは確保していただきたいと思ふ。

**代表**：事務局の方から補足意見があるか。

**認知症支援・介護予防センター所長**：国の方でも大綱を出しているが、その中でも、本人の参加を強く勧めることにしている。本市においても、これまでも認知症の本人に講師になっていただいて講演会をする等をやってきたが、まだまだ難しい点もある。構成員をはじめ関係機関の皆さん、それから家族の会で実際にはもう参加していただいている事例もあるので、そういった方々のご意見等をいただきながら、慎重にかつ前向きに進めていきたいと思っている。具体的には本人が集まるような会議の場を設けていく等、そういったことを一歩ずつになるかもしれないがやっていきたい。

**代表**：他にないか。

**構成員**：資料1-2の主な施策のところだが、「市民センターを拠点とした健康づくり事業の実施、リーダー（普及員）の育成・活動支援等」というと、具体的に高齢者の方をリ

ーダーとして育成するということか。というのも、地元の老人会の会長と話す機会があり、高齢になっても後をやる人がいないから会長を辞められないとのことだった。高齢者の方々は自主的に何かをするという意欲が弱いようで、別の会議でも高齢者の方は具体的に自主的に動くという力がとても弱いという話を聞いた。

こういったリーダーを育成するのはとても大事なことだと思うので、具体的にちょっと教えていただきたいと思う。

**代表**：では、事務局の方から。

**長寿社会対策課長**：基本的には高齢者を対象にというふうに考えている。

ただ、先ほど申し上げたように、65歳即高齢者ということだと考えると、比較的若い方、実態調査では75歳以上、いわゆる後期高齢が高齢者だというふうに考えていらっしゃる方が多く、綺麗に線引きすることはできないが、比較的若い高齢者の方々にこういった役割を担っていただけるような方向でいろいろな仕掛けを仕組んでいきたいというふうに考えている。

**代表**：少し補足で何か説明がないか。

**構成員**：高齢者も65歳以上が高齢者だとは思っていない。75歳以上でまだまだ、75歳以上の方でも、元気な方で何かしら役に立ちたいという気持ちがあるので、その人たちを巻き込んで、民生委員も高齢者と一緒に支援しながらも、支援されとか支援するとか、そういうのではなくイコール、お互いがイコールということで、やっていかなければならないのではないかと思う。

**代表**：関連して何かないか。

**構成員**：共生社会のところでも関係してくるかと思うし、高齢者の生きがいのところもそうだと思うが、私どもの地域はボランティア基金によって高齢者のボランティアの方がすごく事業に参画していただけるようである。そういった事業の継続等も含めて、評価がどうだったのか。そこから地域づくりであったり、共生と共助というところも、地域にとってはとてもいい勉強になるかと思う。今後継続するのかということも含めて共生社会の基本としてどのようにお考えなのか聞かせていただきたい。

**代表**：これは事務局の方から。ボランティア関係も含めて、地域のこの計画策定の中でいうと、意欲を持って取り組むために現場でどういうことがなされていて、どういうことが見えてきているのか。

**地域福祉推進課長**：我々のボランティアの関係については、社会福祉協議会の方でボランティアの育成、それぞれの区の社協等でもボランティアマッチング等をさせていただいている。我々も地域でそういったボランティア活動をやりたいという方については、助成の制度もある。その辺のところを充実させていきたいと思っている。

**構成員**：先ほど言われていた介護支援ボランティアであるが、ボランティア活動をされた方にポイントを付与し、そのポイントがたまれば若干換金もできるし換金したものをど

こかの団体に寄付してもいい、そういったこともできる仕組みを市から委託して行っているところである。

皆様そういったものはお金ではないが、自分がやったことがやっぱり目に見える形というところで意欲が高い。そういった皆様方の意欲につながるようなものを我々がやっていきたいと思う。

**代表**：他にないか。

**認知症支援・介護予防センター長**：最初に質問いただいた介護予防のリーダー（普及員）について説明をする。

当センターでは、様々な介護予防、例えばきたきゆう体操やひまわり太極拳等の介護予防の教室をやっているが、参加された方に、ぜひご自身だけにとどめるのではなく、そのスキルを地域で生かして他の方にも薦めてくださいとお願いしている。そのため、さらにスキルアップをしていただくように普及員を養成し、その普及員の皆様が地域でリーダーとなって進めていただく。さらにその普及員を当センターが支援する中で、高齢者の方ご自身と地域の方々へ伝えていくような仕組みとして現在もやっているし、これからも推進していきたい。

**代表**：他にないか。

**構成員**：ガイドラインから言ったら、実は私も高齢者である。

私は福祉協力員をやっている。区によって違うが、ほとんどの方が65歳以上の高齢者であるが、そこに必ずいのちをつなぐネットワーク系の担当者と社会福祉協議会の方が来て、いろいろな指導等ができない部分はちゃんとフォローされている。地域のことは一番よくわかっているのは、地域の方である。

だから、そこはきちんとしたネットワークを作り、もっと活用したらできるのではないか。それも一つのやりがいにもなるのではないかと思う。

**代表**：具体的な意見をいただいた。他にないか。

**構成員**：家族介護者への支援で「複合的な課題を抱えた家族・ケアラーへの対応」であるが、大変重要な課題であり、これから推進するということが計画は議論されているのだろうと思うが、こういった家庭に入っていくのは大変で、ノックするだけで入れてもらえるか、というところからで、もしかしたら当事者よりも大変ではないか。マスコミでも問題になってはいるので、それとなく私たちも知っているが。

この実績はまだ作られるのだと思うので、ぜひこの辺のノウハウについては公表する過程で私たちも聞かせていただければと思う。

**代表**：要望ということでよいか。

その他にないか。医療サイドで何かないか。何かあったら後で頂戴できればと思う。

## 議事（２）地域ケア会議の実施状況について・・・資料２

**事務局**：議事について、資料２に沿って説明

**代表**：整理しておく、前半に地域包括ケア会議の説明があった。ここで課題が抽出され、それを地域の中でどう解決するか、そのときに、協議体という話が出た。その協議体の中で、今、中心的な役割を担って活動しているのが、社協の事業だということになる。協議体と地域ケア会議をつなぎコーディネートしているところに、行政の職員が入っているという状況だと思う。

少し時間が押しているが、全体を聞いて何か質問や意見があったらお願いしたい。

**構成員**：ウィルスの影響で会議ができていないということだが、今後もリモートとかでやる方向性はないか。例えばハイブリッドでやって集まれる人は集まれるけど、ズームでやるというような形で。今後どんどん地域ケア会議を開催するという方向は考えているか。

**代表**：事務局。

**地域支援担当課長**：この度3月ごろから中止して、実質また再開したのは6月ぐらいだったということで、開催できない時期があった。今後も新型コロナウイルスを含めた感染症等あるので、リモートを考えながら今後の地域ケア個別会議のあり方は検討課題として今思っている。計画の中にもう少しその辺も盛り込みながら検討していこうと思っている。

**構成員**：地域ケア個別会議の事例報告をしていただいて、とてもわかりやすかったが、個別ケア会議にせいかくご本人さんが登壇されているのであれば、ご本人はどういう生活をしたとか、本人の意欲とか意向が確認できれば、されたと思うが、サービスを提供することが自立ではないと思う。サービスを提供したことによって、本人がどういう生き方になっていきたいのか、予防のために本人が努力するというのはどこなのか、そこが見えて本来の自立だと思う。何か手段的な検討するのであれば、これはサービス調整会議ではないのかなと思う。もう少しアセスメントの結果の本質的なところをぜひご提案いただけるとありがたい。

**構成員**：私も同感である。エコマップはいいのだが、支援者が増えたってことしか見えない。中身の生活を当事者が何か変化したというか、変わったことがあるのか。例えばベッドから1人で起きられるようになったとか。できたらこの辺、工夫された方がいいかなと思う、やはり生活でみていった方がいいかなと思う。支援者が多すぎると、後々課題になると思う。

**構成員**：気になるところであるが、支援者フリーってところは、本当に今からの課題になってくるのかなと思っている。おそらく検討して本人の意向を確認されていると思うが、掲示の方法等につきましては今後また見やすくなるだろうと思う。記録の方法などまた教えていただければと思う。

**代表**：事務局からないか。

**地域支援担当課長**：構成員が言われたように、地域ケア個別会議では本人の思いというのはとても重要視している。書面にして表したものがこのような形になっているが、次回

はそういうところもきちんと表現できるようにお示ししたいと思っている。私どもは、本人がどう生きたいか、どう思うかということで、サービス提供ありきではないということは重々思いながら関わっているので、その辺をもう一度基本に立ち返り、そして次回以降報告の際には、その辺を加味しながら提示したいと思っている。

**代表**：他にないか。

**構成員**：今の話の中で、ケアのサポートする人の人数は少ない方がいい、そうだと思う。私が気になったのは、地域ケア個別会議の参加者に歯科医師がいないことである。アドバイザーとして歯科衛生士はいる。歯科衛生士は、ここに書いてあるように歯周病のチェックも当然大きくかかわっているので、それで終わりと思うが、かかりつけ歯科医師への参加要請というのがあってよかったのではないと思う。かかりつけ歯科医師の参加なり書面なりがあった上で、ケア・チェックしていくのは歯科衛生士が担当という形でよい。我々としても動く。介護保険が弱いところは、介護保険の決定のところ口腔内情報が全くないところである。この書面には全く口腔内情報が載っていない。ちょっとそれは悲しかった。

**代表**：事務局から何かあるか。

**地域支援担当課長**：関係者の中に歯科医師がいる限りは来ていただきたいと思うが、来ていただくのは時間中だったりということがあるので、今後書面で意見を求めたときには、ご協力いただけるということで連携していきたいと思っている。今後ともよろしく願いたい。

**代表**：実は一つ皆様方に意見を頂戴したい部分がある。前半の地域ケア会議の中でずっとテーマ的にあるのが集う場である。集う場が不足している。どういう内容で集う場を作っているのか。スタッフの問題等々、多少補足説明があった。この辺りについてぜひお知恵を拝借したい。

**構成員**：北九州市社協の方では、区の事務所の方と一緒に地域のサロン活動というのを推進している。わずかですけれども年間で助成金を出して、地域の活動を応援するという形で今現在市内に400か所ほどサロンができています。ただ、なかなか正直なところ、やっぱり地域のサロンも、すべてオープンに受け入れるという形をとっていないところもあるので、その辺では私どもの方もいろいろ考えていかなければならない。地域の人と話しながら、その辺のあり方というのを考えて行かなければならないと思っている。

それでも、地域のサロンというのは、サロンに参加するだけではなく、参加者も支援者になり得るような、そういった受ける側だけではなくて一緒に活動する側にも回っていただけるような働きかけをやっていきたいと思う。

**代表**：状況説明をいただいた。他にないか。

**構成員**：今サロンが400箇所あると聞いたが、それは本当に動いているのか。なかなか手伝う人材がいない。高齢者は家から出たいという気持ちはあるが、そこで手伝う人材が集まらないから、なかなか月に1回とかは開催できないという実情はある。

人材が皆そろって、週に1回でも2回でもサロンができるなら、高齢者もひきこもりにならないで済むのではないかと思う。

**代表**：関連して何かないか。

**構成員**：集う場については、例えば弊社でもオレンジカフェという名称ではなくて、遊びリハビリテーションと題して、町内の方々、近隣の方々にお誘いをするが、町内の方で回覧板をまわしていただけるので、開催をするときにはたいていお見えになるが、圧倒的にやっぱり女性の方が多い。地域に独居の男性の方もいらっしゃるが、なかなか出てきていただけないので、その方々をどのように参画していただけるのか、ということと、場の提供をしても、参加意欲だとか、そこに多分マッチングしない方々がたくさんいらっしゃる。この調査の中にもあるが、やはり囲碁だとか将棋だとかしたいが相手がいない、ということもあり、男性の方々をどうやって地域に入れていくのか、というところで私たちもとても苦慮している。ボランティアだとか、ラジオ体操の会とか、そういったところには出てこられるが、繋がりが少ないという方が多い。

**構成員**：囲碁なり将棋なり健康マージャンなり、そういうことができるような場があれば、集まってくるのではないか。いろんな趣味がたくさんあったりするところで、面白いことやってるよ、と紹介してもらえると出てきたりするのかな、と思う。

**代表**：なかなか解決策がすぐにあるわけではないが、ぜひまた引き続きメールやFAX等で寄せていただければと思う。

#### 報告（1）次期北九州市地域福祉計画について・・・**資料3**

**事務局**：資料3に沿って事務局から説明

意見なし

#### 報告（2）「とびうめ@きたきゅう」について・・・**資料4**

**事務局**：資料4に沿って事務局から説明

**構成員**：今説明のあった「とびうめ@きたきゅう」であるが、皆さんご存知のように、これほどの医療介護メンバー、職能団体、行政が一体となって取り組んだ取り組みというのは本当に今までなかった。だから、北九州市医師会もこの取り組みをぜひとも成功させたい、軌道に乗せたいと思っている。今回登録状況を見ると診療所が何とか多く登録者数を得てくれているが、まだ診療所自身が「とびうめ@きたきゅう」に対して非常に皆が協力的かというところではない。患者さんの口から、患者さん同士で、こういう風な取り組みがあつて「あなた登録したの？」とか言いながら「いや、してない。」「じゃあ、したら。」という形で、今少し輪が広がっていているので、何とか皆様方のご協力を得て、この「とびうめ@きたきゅう」を成功させたいと思っている。よろしくお願ひしたい。

**代表**：「とびうめ@きたきゅう」について他にないか。今後ともよろしくお願ひしたいと思う。

全体を通して何かないか。特になければ、最後事務局から連絡事項を。

**事務局**：次回の会議等についての案内